

これまでにない規模の風しん流行が継続しています
～ 妊婦への感染には特に注意してください！～

都内においては昨年夏に風しん患者数が急増して以降、これまでにない規模の流行が継続しています。今年1月に入り患者数はさらに増加し、第4週ではこれまでで最多の患者数となっています。

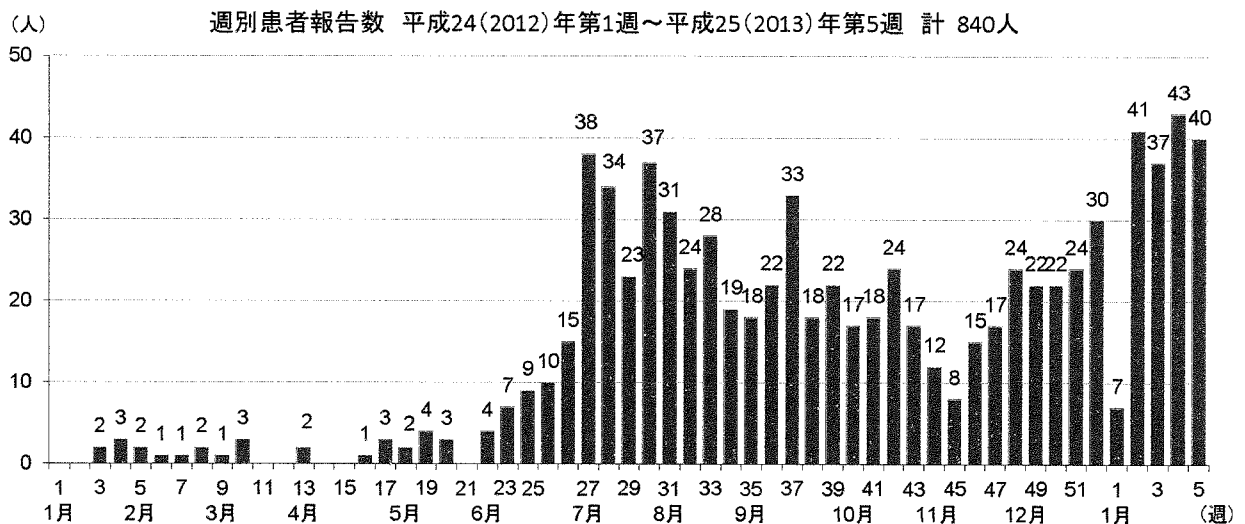
昨年からの傾向として、患者は20代から40代の男性が多く、女性では20代の方の割合が高くなっています。また、患者の多くは予防接種歴がない又は確認できない方となっています。

妊婦や妊娠の可能性のある方については、胎児の先天性風しん症候群のおそれもあるため、周りの人から感染しないよう十分な注意が必要であり、職場や家庭での感染防止にも注意してください。

【 都内における風しん患者報告数 】

(参考/週当たり平均患者報告数)

第2週 (1月 7日～1月13日)	41人	平成23年 (年間)	0.6人
第3週 (1月14日～1月20日)	37人	平成24年 (6月まで)	2.9人
第4週 (1月21日～1月27日)	43人 ※	平成24年 (7月以降)	23.0人
第5週 (1月28日～2月 3日)	40人	(※ 風しん全数届出開始 (平成20年)以降で最多)	



【 予防・感染防止 】

- ◆ 風しんと診断された場合は、感染性を持つとされる期間（発しん出現後5日くらいまで）周囲に感染を広げないように注意が必要です。風しんは、飛まつにより感染するため、咳（せき）などの症状があるときは、マスクを着用しましょう。
- ◆ 風しんにかかったことがなく、これまでに予防接種を受けていない場合は、かかりつけ医等へのご相談をお勧めします。風しんは、定期予防接種の対象です。

これから妊娠を希望される方と、そのパートナーの皆様へ…

予防接種で妊婦さんと赤ちゃんを 風しんから守りましょう



妊娠初期に風しんに感染すると、胎児も風しんウイルスに感染し、先天性風しん症候群*の赤ちゃんが生まれることがあります。妊娠中は風しんの予防接種は出来ません。先天性風しん症候群を予防するために、家族（特にパートナー）の方が接種を心がけることが重要です。



*先天性風しん症候群とは、白内障・先天性心疾患・難聴を主な症状とする疾患です。



以下の方は、風しんの予防接種を受けましょう。

- ① 妊婦の夫、子ども、その他の同居家族
- ② 10代後半から40代女性
(特に妊娠希望者または妊娠する可能性が高い方)
- ③ 出産から、まもない女性
(妊娠初期の検査で、風しんの抗体価が低かった方)

お子様のMR（麻しん・風しん）ワクチン定期接種もお忘れなく！

より詳しい風しんの情報はこちら

世田谷区 風しん

検索

作成：世田谷保健所感染症対策課